

特 261

959

昭和十一年
丙子白歲

大氣運行過程

始



特261
959



氣學講堂

氣學講堂略

縁起書

修訂會

寄贈本

氣學講堂は今より千三百餘年前、推古天皇の十年十月百濟の僧、勸勒の奉獻せる曆、天文、地理、遁甲、方術の五書に據り聖德太子の創めて我國に於て自然科学を講ぜられたる御學問所を古都長岡皇城址に復興せしものとす。

抑々、宗教とは樓閣伽藍に非ず、神官僧侶に非ず、經文戒律に非ざるなり。則ち之を要約すれば、宇宙、大氣原子の爲す先天及後天作用を人の生存に善導實用せしむる方則にして、生きんとする者の生きんとする軌に故障あらしめざるを垂示するを以て其本義とす。

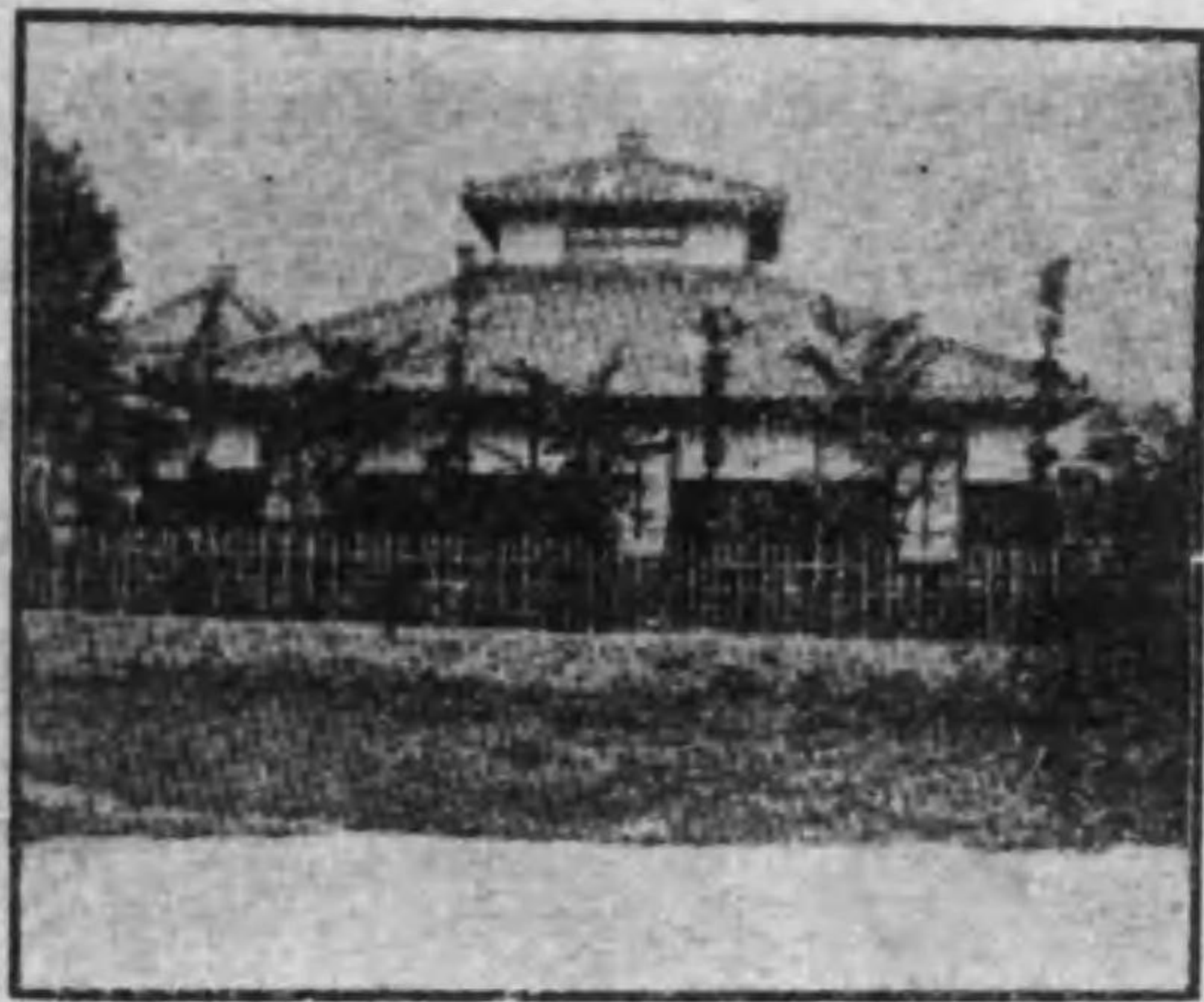
講堂は聖德太子御在世の文化を今に移し宇宙、大氣原子に關する萬古不易の方則を講授して人をして其幸福安寧を保持増進せしむる講學所とす。

氣學天壇創設概誌

文殊菩薩の書畫し弘法大師の持來せる佛教の奥義曼荼羅は宇宙構成の形相を圖示せるものにして即ち大氣原子の實象を想像摸寫せるものとす。抑々宇宙、大氣原子の實象は之を極樂莊嚴とも謂ひ九氣七色より成る麗美的氣粒にして一旦之れが密集連合せる氣層を實視するや異様なる神美感を生じ爾後如何なる美的現象も之に如かざるを覺ゆべく且續いて祐幸なる天運の澎湃に接し人生怡樂の歡喜を味得するに至るべし。されば人皆之を映感せんと渴望するも九六の祐氣を修齊せざれば之を得ず古來獨り善導大師(淨土宗始祖)あるを聴くのみ。氣學天壇は此の萬物構成の基元たる宇宙大氣原子に就いて占照究理する所にして又九六の祐氣修齊者に密教曼荼羅の具現及現世に於て其現身に天國淨土の實象を觸感せしむる修驗所たり。今や宇宙眞理を偽裝糊塗せる西歐科學の行詰に際し天照大神の明示し賜へる我が八咫哲學の漸く皇輝を伸べて現代人に其處生の誤謬を正し以て人類の福祉を増進せんとするものなり。

氣學天壇 (山宕愛)





中央氣育安居所

中央氣育安居所由來記(舊九六修齊堂改稱)

老子は無の教育を唱導し釋迦は四回以上安居(禪氣を用ふ可く一定場所に遷居するを謂ふ)せる者に和尙の僧位を贈り古來大氣教育は宗教的行事の裡に隠れて現はれず弘法大師亦之れが顯揚の具體策として弘仁八年紀州高野山上に法域を結界し中央に根本大塔を建立して之を金剛峰とし其東方に楊柳山、巽方に摩尼山、南方に姑射山、坤方に虎ヶ峰、西方に應神山、乾方に辨天嶽、北方に宇宙ヶ峰、艮方に勝蓮華院山の九峰を撰し之等の山から山、峰から峰への移居動身を以て初めて之を人に活用實施するの緒に就きしが不幸天業中道にして蕪ぜられぬ。中央氣育安居所は弘法大師の施設に倣ひ老子釋尊の意を體し宇宙大氣原子の先天及後天作用の實施を一堂の内に収めたるものにして即ち東方に登進舎、巽方に齊風舎、南方に九六舎坤方に地役舎、西方に靜澤舎、乾方に乾天舎、北方に一始舎、艮方に止動舎、中央に太極洞間の九室を設け之等の室から室への移居動身を以て所謂大氣教育を人身保有の本命の氣に授け人の天運の改善助長を圖る所とす。

○八咫鏡と神の體用

八咫ヤタとは全能の用ハダラキを謂ふ。抑々神は其體カガチは無、其用ハダラキは全能にして之を宇宙に存する大氣原子と爲す。

大氣原子は極微なる八角立方の粒形を爲し無の體カガチを以て萬物に包含せられ其の太極を定むるや天地ドウヂヨウと同行して一切の生成化育を司る。則ち神の體カガチは八角の粒形にして九氣七色より成り神の用ハダラキは九種と定まり天地と共に無窮たり。

畏くも八咫鏡は此の萬物に對し生成化育を司る宇宙大氣原子を示象せられしものにして皇宗スミマの以て治國の基となし賜ひ列聖の以て尊嚴の極となし賜ふ所なり。我邦の古來神國たる所以は實に此の八咫鏡の鎮護に發すと謂ふべし。

○氣學の創始

宇宙生類の生存は大氣の保有呼吸に基く。人も誕生の際母體と別個に大氣を稟保するものにして之を人の本命の氣と稱し本命の氣の一極は生涯、人の生存と天地大氣の生動との連繫を爲すものとす。

抑々現代世界の學界を擧げて是認せられつゝある大氣即ち空氣の組成は今より百六十餘年前近世化學の祖と仰がる、佛蘭西人ラヴアジエー氏の實驗を以て解説せられ因襲の久しき遂に不信の裡に之を確定して怪ます既に一般學徒の通念と爲り居るも元來ラヴアジエーの實驗は窒素の固形物たる水銀を硝子管中に於て長時間熱し其氣體分離を求めたるものに過ぎざれば管中に於ける空氣の成分に窒素の多かる可きは自明の理なり。

ラヴアジエーの實驗によれば空氣の化學的成分は左の如しと爲す
空氣百分中 窒素 七八・〇三 酸素 二〇・九九 其他 〇・九八

されば大氣即ち空氣の成分は今やラヴアジエーの實驗を非とし新たに窮理せられざる可からず、則ち大氣は人の感能に感ぜざる人の肉眼に映ぜざる大氣原子と稱する八角立方體極微粒子の密集より成れるものにして大氣原子そのものも亦其體(形体)八個の異類な

る氣體粒子の集合より成り其用(作用)九個の異なる營爲の集合より成る。要約せば大氣の化學的成分は窒素(六白金氣)酸素(三碧木氣)アルゴン(五黄土氣)ネオン(八白土氣)ヘリウム(九紫火氣)クリプトン(九紫火氣)クセノン(二黒土氣)の他尙三種の氣體を追加するを要し各成分の容量割合も亦均等たるものとす。

大氣原子の體及用カクハクの詳細に就いては講堂の口傳に譲ると雖も宇宙に存する現實に於ける一切象形の體及用は單に大氣原子の體及用を大衍せるものに過ぎず。

而して大氣原子の用ハコトに祐尅の二作用あり。萬物祐氣を稟くる時は生加して有を見るに至れども若し尅氣を稟くる時は減滅して遂に無に歸すに至るべし。

人の本命の氣に同會する祐氣の運は之を幸運と稱し尅氣の運は之を凶運と稱す。人生の災禍、貧窮、病患の凶運に苦惱するも或は亦之が福慶、富貴健康の幸運に歡喜するも唯呼吸大氣の祐尅如何に據つて發す。されば自己の呼吸する大氣の祐尅を知らざる者は自己の運命の去就を知らず自己の生存の難易を知らざるなり。人の運命と呼吸大氣の祐尅如何豈懼る可く撰ぶ可きに非ずや。此の宇宙大氣原子に關する新學術を氣學と謂ふ。

(一) 感寸學氣

現象の生因

凡そ人の處世の苦は貧と病との二より發す。貧を防ぎ病を避け人各々其享保せる天徳の全能を發揮して其生を樂しむを得ば現世即ち實相の淨土たり。

政治の要諦も宗教の存立も科學の目的も究極一に此の人生淨土の實現に歸す。而して之が實現の對策として法律の制定、行政の實施、教化の設備、社會事業の施設等あり、指導の懇切、匡救の盡力、保護の普及全きを期すと雖も、尙ほ巷に失業を憂ひ室に病患を呪ふ聲あるを聞く。

文化開けて人、反つて生きるに苦しむとは何ぞや。之れ世の人、貧の現象、病の現象そのものを知つて未だ現象の生因を知らず即ち自己に映感せる現象の末實のみを知つて未だ自己に映感せざる現象の本元を知らざるなり。既に現象の成因を知らず焉イツケンぞ之が末實に對する良策を得んや。今やヘーゲル氏の現象に關する新論理科學を基礎として立論せるマルクス氏の經濟論を聽くと雖も其論説は宇宙先天の方則に乖離せるを知らざるものなるが故に其學說の實際化實用化は全く至難にして單に人を毒するのみ。

氣學は現象の成因本元たる宇宙大氣原子に關する新自然科學にして彼の老子の唱導せる所謂「玄」の本體たり即ち人に現象の成因本元たる宇宙大氣の善用を教へ以て人の處世に於ける貧病を始め一切の災厄を芟除し人に其天徳の豊有を圖らしめて之が末實たる福慶の現象を稟與招來せしむるものとす。

(九氣現象學)

○自昭和十二年二月五日子ノ刻至全十三年二月四日亥ノ刻

壹ヶ年間宇宙運行の大氣原子内に於ける九個の

氣體粒子の機能及其所在方位は左の如し



- 中央……………一白水氣
- 乾方……………二黑土氣
- 西方……………三碧木氣
- 艮方……………四綠木氣
- 南方……………五黄土氣 歲破氣
- 北方……………六白金氣 暗劍殺氣
- 坤方……………七赤金氣
- 東方……………八白土氣
- 巽方……………九紫火氣

○各性の祐尅氣所在方位年別表

抑々人の天運は禍福の現象と爲りて人に映感せしむるに、一線の氣より四線の幾七線の象、十線の形に至る期間を要す。則ち月にして四ヶ月、七ヶ月、十ヶ月、年にして四年七年十年の歲月を経るを要す。人の現在に於ける苦樂、禍福は凡て過去に於ける其身體の無意識に呼吸、吸入蓄保せる宇宙大氣の祐尅作用に發端生因するものとす。されば凶を避け吉を疆めんと欲せば平常より祐氣を用ひて之を蓄保し、將來吉運の招來に專念すべし。今年に於ける各人、本命性に對する大氣祐尅の所在方位を揭示すれば左表の如し。

- 一、各自の生年を以て其本命性を知り現在の住居を太極(中心)として方位を別つ可し。
但十八歳以下の者は其生月を以て本命性を定む。
- 二、尅氣本命を用ふる時は其効應の定時に於て死亡するに至る可く尅殺を用ふる時は失敗するに至る可し。
- 三、祐氣實用の方法に七種あり内最も實施の簡易なるは自家内に於ける寢所の移動とす。
- 四、人の喜怒哀樂の感情を起し或は成功及失敗の禍福を演ずるは皆自己の周圍に於ける他人の自己に爲さしむる處たり(親子、夫婦、兄弟と雖も自己の身體と大氣を別個に保有せる者は天地より見て皆之を他人と謂ふ)されば人の處世の善惡如何は自己と其周圍に於ける他人との連繫作用の得失如何に據つて定まる。祐氣を用ひたる人には其周圍の他人皆自己に慶幸の作用を與へ尅氣を用ひたる人には皆之に反す。

本命性別	大氣別		祐氣所在方位		尅氣所在方位	
	生氣大	和氣吉	退氣小	劔殺氣極	五黃殺氣極	本命氣極
一 白水性	坤	—	西、艮	北	南	中
二 黑土性	—	東	坤	北	南	乾
三 碧木性	—	艮	巽	北	南	西
四 綠木性	—	西	巽	北	南	東
五 黃土性	巽	東、乾	坤	北	南	坤
六 白金性	東、乾	坤	—	北	南	北
七 赤金性	東、乾	—	—	北	南	南
八 白土性	巽	乾	坤	北	南	東
九 紫火性	西、艮	—	東	北	南	西
						乾
						中
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、艮
						巽
						坤、北
						東、乾
						西、

○各性の祐氣所在方位月別表

一、年盤の祐氣は前表参照

一、祐氣の多き月は天運的に行動自由なる時期とす。

九紫火性	八白土性	七赤金性	六白金性	五黄土性	四綠木性	三碧水性	二黒土性	一白水性	性別		月別
									在	別	
北南	東乾巽	西東	巽	東乾巽	乾西	乾西	乾東巽	東巽北南	位方	氣九	正月節
四三	六九七	一六	七	六九七	九一	九一	九六七	六七四三	位方	氣九	二月節
北南坤乾	南	南艮巽乾	南艮	南乾巽	北	坤艮	乾巽	北巽坤	位方	氣九	三月節
三二四八	二	二一六八	二一	二八六	三	四一	八六	三六四	位方	氣九	四月節
東西	北艮	南北西	北西	艮西	艮南坤	南東	艮西	坤東	位方	氣九	五月節
四八	二九	一二八	二八	九八	九一三	一四	九八	三四	位方	氣九	六月節
巽坤艮東	南西	坤北艮	北艮西坤	南艮西	南北東	南北巽	南西	巽東西	位方	氣九	七月節
四二八三	九七	二一八	一八七二	九八七	九一三	九一四	九七	四三七	位方	氣九	八月節
東	東西艮	南西東	南艮坤	南艮西東	坤	坤	艮	西	位方	氣九	九月節
二	二六七	八六二	八七一	八七六二	一	一	七	六	位方	氣九	十月節
巽乾	巽坤	巽	南巽北	北南坤	坤	坤乾	北南坤	乾南	位方	氣九	十一月節
二四	二九	二	七二八	八七九	九	九四	八七九	四七	位方	氣九	十二月節
乾	東南北	巽	巽	南北東	乾巽	西東	南北東	北南西	位方	氣九	正月節
三	九六七	一	一	六七九	三一	四九	六七九	七六四	位方	氣九	二月節
艮西	坤乾巽	乾	乾坤	乾巽坤	巽西	巽艮	坤	艮坤西	位方	氣九	三月節
四三	七二九	二	二七	二九七	九三	九四	七	四七三	位方	氣九	四月節
艮西	西東坤	坤乾	西乾東	西坤東	艮乾	乾	坤	東艮坤	位方	氣九	五月節
三二	二七六	六一	二一七	二六七	三一	一	六	七三六	位方	氣九	六月節
北南	東乾	西東		乾東	乾西	西乾	乾東	北南	位方	氣九	七月節
四三	六九	一六		九六	九一	一九	九六	四三	位方	氣九	八月節
北坤乾		艮巽乾	艮	乾巽	北	坤艮	乾巽	巽北	位方	氣九	九月節
三四八		一六八	一	八六	三	四一	八六	六三	位方	氣九	十月節
北東西	艮北	南北西	南北西	北艮西	南	南東	艮西	東	位方	氣九	十一月節
二四八	九二	一二八	一二八	二九八	一	一四	九八	四	位方	氣九	十二月節

○各性の大氣同會月別 (氣學年度)

一、人の意志は人体の保有する大氣の一種即ち人の本命性に宇宙大氣の同會せる結果發生するものにして大氣同會作用、年月日時の變化に従ひ人の心境は常に他動的に變化すべし。
 一、祐氣の同會は心境良化し、尅氣の同會は心境惡化す、詳細は心理氣學に就いて知るべし。
 一、本命年盤の同會は自然の成行を示し本命月盤の同會は自己の意志を示す。同會の作用に依る祐尅吉凶の如何は氣學入門を參照すべし。
 一、記号略字「ア」は暗劒殺氣、年盤「破」は月破氣、月盤「破」は歲破氣とす。

性別		月別		正月節		二月節		三月節		四月節		五月節		六月節		七月節		八月節		九月節		十月節		十一月節		十二月節	
年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤	年盤	月盤
九紫火性	乾	巽	中	七	巽	西	三	艮	四	南	五	北	六	坤	七	東	八	巽	九	中	一	乾	二	西	三	艮	四
八白土性	坤	艮	中	九	坤	西	四	艮	五	南	六	北	七	坤	八	東	九	巽	一	乾	二	西	三	艮	四	南	五
七赤金性	艮	坤	中	一	艮	西	五	艮	六	南	七	北	八	坤	九	東	一	乾	二	西	三	艮	四	南	五	北	六
六白金性	坤	艮	中	二	坤	西	六	坤	七	南	八	北	九	艮	一	乾	二	西	三	艮	四	南	五	北	六	坤	七
五黄土性	艮	坤	中	三	艮	西	七	艮	八	南	九	北	一	坤	二	乾	三	西	四	南	五	北	六	坤	七	艮	八
四綠木性	坤	艮	中	四	坤	西	八	坤	九	南	一	北	二	艮	三	乾	四	西	五	南	六	北	七	坤	八	艮	九
三碧木性	艮	坤	中	五	艮	西	九	艮	一	南	二	北	三	坤	四	乾	五	西	六	南	七	北	八	坤	九	艮	一
二黑土性	坤	艮	中	六	坤	西	一	坤	二	南	三	北	四	艮	五	乾	六	西	七	南	八	北	九	坤	一	艮	二
一白水性	艮	坤	中	七	艮	西	二	艮	三	南	四	北	五	坤	六	乾	七	西	八	南	九	北	一	坤	二	艮	三

○各性の大氣對中月別 (氣學年度)

一、對中は人の意思の目標方向を示す。年盤は一ケ年間、月盤は一ケ月間の期間其作用を爲す。同會は具體的に現象の接受を見るも對中は意識的に唯想像するのみ。

一、對中の哲理は人に坐して千里の外を知察先見する能を與ふ。詳細は九氣密意を參照せらるべし。

性別	盤別		月												
	年盤	月盤	全年	正月節	二月節	三月節	四月節	五月節	六月節	七月節	八月節	九月節	十月節	十一月節	十二月節
一白水性	巽九	坤七	東六	坤四	北三	南二	艮一	南九	西七	乾五	巽四	坤三	東二	巽一	坤九
二黑土性	坤七	艮三	北二	艮一	南九	西七	乾五	巽四	坤三	東二	巽一	坤九	艮八	坤七	艮六
三碧木性	艮三	坤七	北二	艮一	南九	西七	乾五	巽四	坤三	東二	巽一	坤九	艮八	坤七	艮六
四綠木性	坤七	艮三	北二	艮一	南九	西七	乾五	巽四	坤三	東二	巽一	坤九	艮八	坤七	艮六
五黃土性	北六	艮三	西一	乾八	坤七	艮六	坤五	艮四	坤三	東二	巽一	坤九	艮八	坤七	艮六
六白金性	南五	乾九	東六	坤四	北三	南二	艮一	南九	西七	乾五	巽四	坤三	東二	巽一	坤九
七赤金性	艮四	坤七	北二	艮一	南九	西七	乾五	巽四	坤三	東二	巽一	坤九	艮八	坤七	艮六
八白土性	西三	坤七	東六	坤四	北三	南二	艮一	南九	西七	乾五	巽四	坤三	東二	巽一	坤九
九紫火性	乾二	艮三	北二	艮一	南九	西七	乾五	巽四	坤三	東二	巽一	坤九	艮八	坤七	艮六

○天地の節替と大氣の變化

- 一、節替日の前後は先天的に天候或は氣候變化す。左表下、天候變化記入欄へ書入れ置きて將來實驗の参考とせらるべし。
- 一、四才以下の幼兒、月建方へ移居する時は死亡す。
- 一、住家の月建方へ胞衣を埋納すべからず。
- 一、交渉、轉居等に月破方を用ふべからず。
- 一、天干と地支相尅する月は氣候不順、天候異常なるべし。
- 一、凡て天の氣候の變化は一ヶ月遅れて地の氣候の變化となりて現はる。(直線の哲理)

節名	太陽曆		氣層別大氣原子の中核		月建方月破方		節替、天候變化記入欄
	期間	節替日	天干	九氣	地支	月建方	
立春、雨水	自二月五日 至三月六日	二月五日	庚氣	八白氣	寅氣	寅北の方	
啓蟄、春分	自三月七日 至四月八日	三月七日	辛氣	七赤氣	卯氣	卯東の方	
清明、穀雨	自四月九日 至五月十日	四月七日	壬氣	六白氣	辰氣	辰東南の方	
立夏、小滿	自五月十一日 至六月十二日	五月七日	癸氣	五黃氣	巳氣	巳東南の方	
芒種、夏至	自六月十三日 至七月十四日	六月八日	甲氣	四綠氣	午氣	午南の方	
小暑、大暑	自七月十五日 至八月十六日	七月九日	乙氣	三碧氣	未氣	未西南の方	
立秋、處暑	自八月十七日 至八月十八日	八月九日	丙氣	二黑氣	申氣	申西南の方	
白露、秋分	自八月十九日 至九月十日	八月九日	丁氣	一白氣	酉氣	酉西南の方	
寒露、霜降	自九月十一日 至十月十二日	九月十日	戊氣	九紫氣	戌氣	戌東南の方	
立冬、小雪	自十月十三日 至十一月十四日	十月九日	己氣	八白氣	亥氣	亥東南の方	
大雪、冬至	自十一月十五日 至十二月十六日	十月九日	庚氣	七赤氣	子氣	子北の方	
小寒、大寒	自十二月十七日 至一月十八日	一月七日	辛氣	六白氣	丑氣	丑北東の方	

○昭和十一年 日の氣粒表 (氣學年度)

略字一ハ一白水氣二ハ二黒土氣三ハ三碧木氣以下之ニ

一、現在世界の採用しつゝあるグレゴリ曆(太陽曆)は大氣運行の實際と曆との間に毎年付約八秒六四の差を生ず。されば時折氣學對中及同會の兩哲理を應用し以て大氣運行を測り或は節替り日前後に於ける天候の變化を以て其正鵠を確む可し。

一、氣學年度とは其年により一日前後の差ありと雖も二月五日子の刻より翌年二月四日までを滿一年と爲し且又一年を二十四氣節に分つを謂ふ。

一、四月甲子九紫の日より、十月癸亥一白の日までを陰遁と爲し、十月甲子一白の日より四月癸亥九紫の日までを陽遁と爲す。地球は太陽に對し二十三度二十七分四十四秒を爲すが故に其自轉及公轉作用の結果は夜の長き日の時期と晝の長き日の時期とを則ち九紫、八白、七赤、六白、と陰遁する日の時期と一白、二黒、三碧、四綠、と陽遁する時期との二に分るゝものとす。

一、大氣を構成する大氣原子は人の肉眼に映せず人の感能に感せずと雖も年月日時に於て變ず左表干支月盤内は月の大氣原子の變化を示し日別内は日の大氣原子の變化又節名内は氣候の態様を表せり。

一、人の生年の天干及其六ツ目の天干巡り來る時は直線の哲理に據り氣が變る即ち其變化を起し其人の心氣更改すべし。例へば甲歲生れの人ならば甲及其六ツ目の天干の月、日巡り來る時は其精神に變化を生ず。左表を用ひて人の精神の變化する時期自己の心氣更改する時節を知るべし。

一、大氣は節と系とを作りて流動輪廻す即ち九氣に一四七、九六三、二五八の三節三系地支に子卯午酉、丑辰未戌、寅巳申亥の四節三系あり。左表を以て線路の哲理を世一切の交渉の調談に、事業の完成に、病氣の治療に、之を實施すべし。

節名	日	節名	日	節名	日	節名	日	節名	日	節名	日	節名	日	節名	日	節名	日	節名	日
立春、雨水	二月三日	啓蟄、春分	三月三日	清明、穀雨	四月五日	立夏、小滿	五月七日	芒種、夏至	六月九日	小暑	七月十一日	立秋	八月十三日	處暑	九月十五日	秋分	十月十七日	寒露	十一月十九日
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉
庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉												

の實際と曆との間に毎年一年に
哲理を應用し以て大氣運行の實
態を確む可し。

十月甲子一白の日より翌年
十三度二十七分四十四秒の傾斜
と晝の長さ日の時期とを生ず。
黒、三碧、四緑、と陽通する日の

せずと雖も年月日時に流動輪回
内は日の大氣原子の變化を示す

に據り氣が變る即ち其人の精神
は甲及其六ツ目の天干即ち己
人の精神の變化する時期を察し

六三、二五八の三節三系あり、
表を以て線路の哲理を活應し處
を實施すべし。

(三) 感寸學氣

天徳と慾得

人は慾張りさへすれば必ず與へられるものではない。慾張つて必ず與へられるに
は得る軌たる天徳の作用を持つ必要がある。若し此の天徳の作用を持たずして慾
張り取ると其結果は一時良くとも必ず不幸の基となるものである。人生は慾の闘争場とさへ見られる
のであるからして人は皆得る軌たる天徳を持つて之に臨まなければ徒らに隔靴搔痒の感に堪へないの
みである。而して人の慾張る分量と其與へられる分量とは常に甚しき懸隔のあるのが普通である。之
は人の慾に際限がないと云ふよりも寧ろ人の得る軌が弱い得る天徳が稀薄だと云ふ點に歸着する元來
人の與へられる分量は其得る軌たる天徳の分量換言すれば祐氣の保有量に正比例するものである。故
に大いに取らんとする者は大いに祐氣を用ひて天徳の涵養果積を企圖せねばならない。

自己の得る軌たる天徳の分量を超えて多く取ると嫉視、無謀、指彈を受け不常利得とか横領とか忌し
い汚名を着せられるのである。しかし人が慾を出す云ふ事は決して卑しい事ではない。人の慾の最
初にして最貴なるを生存慾と云ふのであるが此の生存慾を出すのは最も大切な事である。唯人は自己
の分を知つて自己の有する得る軌たる天徳の分量を超へて慾を出さぬ事である。假令出しても與へら
れず返つて不幸を見るのみであるからして寧ろ得る軌たる天徳の蓄積を圖つてあとは自然の成行に委
ねる方が賢明である。

人は自ら慾張らずとも有する天徳の分に應じて必ず天より與へられるものである。(九氣經濟學)

芒種、夏至	小暑、大暑	立秋、處暑	白露、秋分	寒露、霜降	立冬、小雪	大雪、冬至	小寒、大寒
甲午 四綠	乙未 三碧	丙申 二黑	丁酉 一白	戊戌 九紫	己亥 八白	庚子 七赤	辛丑 六白
甲申一	乙卯六	丙戌二	丁巳七	戊子七	己未二	庚申三	辛卯七
乙酉九	丙辰五	丁亥一	戊午六	己丑八	己未二	庚寅三	辛酉七
丙戌八	丁巳四	戊子九	己未五	庚寅九	辛卯一	壬辰四	癸巳九
丁亥七	戊午三	己丑八	庚申四	辛卯一	壬辰二	癸巳五	甲午一
戊子六	己未二	庚寅七	辛酉三	壬戌二	癸巳三	甲午四	乙未二
己丑五	庚申一	辛卯六	壬戌二	癸巳三	甲午四	乙未五	丙申六
庚寅四	辛酉九	壬辰五	癸巳一	甲午四	乙未五	丙申七	丁酉九
辛酉六	壬戌八	癸巳四	甲子一(陽道始)	乙丑二	丙申六	丁酉七	戊戌九
壬戌五	癸巳二	甲子六	乙丑二	丙寅三	丁酉七	戊戌八	己亥三
癸巳一	甲子九	乙丑五	丙申一	丁酉四	戊戌八	己亥九	庚子三
甲子三	乙未八	丙寅四	丁酉九	戊戌五	己亥九	庚子四	辛丑八
乙丑二	丙申七	丁卯三	戊戌八	己亥六	庚子一	辛丑五	壬寅九
丙寅一	丁卯九	戊辰二	己亥七	庚子七	辛丑二	壬寅六	癸卯一
丁卯九	戊辰六	己巳一	庚子六	辛未八	壬寅三	癸卯六	甲辰二
戊辰八	己巳七	庚午九	辛丑五	壬申九	癸卯四	甲辰七	乙巳三
己巳七	庚子三	辛未八	壬寅四	癸卯三	甲辰五	乙巳九	丙午四
庚午六	辛丑二	壬申七	癸卯三	甲辰一	乙巳六	丙午七	丁未五
辛未五	壬寅一	癸酉六	甲辰二	乙巳六	丙午七	丁未八	戊申九
壬申四	癸卯一	甲戌五	乙巳一	丙午四	丁未八	戊申九	己酉七
癸酉三	甲辰八	乙亥四	丙午九	丁未五	戊申四	己酉三	庚戌八
甲戌二	乙巳七	丙子三	丁未八	戊申五	己酉一	庚戌四	辛亥九
乙亥一	丙午六	丁丑二	戊申七	己酉六	庚戌二	辛亥五	壬子一
丙子九	丁未五	戊寅一	己酉六	庚戌八	辛亥三	壬子七	癸丑二
丁丑八	戊申四	己卯九	庚戌五	辛亥九	壬子四	癸丑八	甲寅三
戊寅七	己酉三	庚辰八	辛亥四	壬子一	癸丑五	甲寅九	乙卯四
己卯六	庚辰二	辛巳七	壬子三	癸未二	甲寅六	乙卯九	丙辰五
庚辰五	辛巳二	壬午六	癸丑二	甲寅三	乙卯七	丙辰八	丁巳六
辛巳四	壬午一	癸未五	甲寅一	乙卯三	丙辰四	丁巳七	戊午七
壬午三	癸未九	甲申四	乙卯九	丙辰五	丁巳三	戊午二	己未八
癸未二	甲申八	乙酉三	丙辰四	丁巳五	戊午七	己未九	庚申九
甲寅七	乙酉三	丙戌五	丁卯九	戊辰五	己巳八	庚子三	辛丑八
乙酉三	丙戌五	丁卯九	戊辰五	己巳八	庚子三	辛丑八	壬戌二

六白金性	五黃土性	四綠木性	三碧木性	二黑土性	一白水性	九紫火性
四三二 十十三 二三四 六六五 十九十一	四三二 十十三 一十二 六五五 十八九十	四三二 十十三 十一二 六五四 十七八九	三三二 十九十 九一 六五四 十七八九	四三二 十七八 七六五 十四十六	四三二 十六七 七六五 十三十四	四三二 十五六 七六五 十二十三
衰極	衰旺	衰變	衰沈	衰初	盛極	盛旺
發病、貧苦(損失)、色情(放蕩) 移居(家出)、悲觀(憂鬱)	夫婦の離婚、子女の死別、勤務の 解雇、後援の斷絶、訴訟の興起	身上的變化、家庭の改善、處世の 改革、整理、相續争ひ、親族不和	身體の衰弱、金を減らす、引退沈 靜、口論、贅澤、消極的	現狀に倦怠、住居新増築の起念 一家の創立、幸運に狎れて慢心 生ず 投機に染手、過分の出金、偉大な る新希望新目的を發す、意張る、 金錢の濫費、解決を急ぐ	結婚、就職、信用つく、事の成就、 處世の悅樂、儲かる	

○昭和十一年(氣學年度)に於ける各人、先天の運、略述すれば左の如し

- 一、左表の性別を知るに二月四日以前生れの人、前年生れに付其年齢に一歳を加算して見るべし。
- 二、人の天運は先天の運と後天の運との二より成る。
- 三、先天の運は生家の保有せる大氣(家相)の如何と生誕の際體內に稟有せる大氣(本命性)の如何に依つて定まり、後天の運は生後、移居動身により呼吸、吸入したる祐氣及尅氣の如何と満四ヶ年以上在棲せる住家の保有せる大氣(家相)の如何に依つて決す。
- 四、人の天運は之を詳細に檢別すれば各性共祐尅合せて六萬千四百四十種の差異を有す。
- 五、左表は單に本命性別を以て遁甲の哲理に據る人の天運を揭示せり。
- 六、過去に於て祐氣を用ひたる人は其用ひたる量丈け其齎す種類の幸福を左表に附加し、尅氣を用ひたる人は其用ひたる量丈け其齎す種類の災禍を左表に附加す。
- 七、各自天運の詳細を知らんと欲せば氣學入門及九氣密意を参照すべし。

性別	年齢	天略運別	處世注意事項
七赤金性	三十五、五十二、六十一、七十	盛、初	怠惰を棄て、忠實に働く、人に盡くす、柔順、誠實
八白土性	三十五、五十二、六十一、七十	盛、進	希望叶ふ、目的の途に進む、業務の繁忙、將來の好望、處世の樂觀
九紫火性	三十七、五十四、六十三、七十二	盛、旺	結婚、就職、信用つく、事の成就、處世の悅樂、儲かる
一白水性	三十七、五十四、六十三、七十二	盛、極	現狀に倦怠、住居新増築の起念、一家の創立、幸運に狎れて慢心生ず
二黑土性	三十七、五十四、六十三、七十二	衰、初	投機に染手、過分の出金、偉大なる新希望新目的を發す、意張る、金錢の濫費、解決を急ぐ
三碧木性	三十九、五十六、六十五、七十四	衰、沈	身體の衰弱、金を減らす、引退沈靜、口論、贅澤、消極的
四綠木性	三十九、五十六、六十五、七十四	衰、變	身上の變化、家庭の改善、處世の改革、整理、相續争ひ、親族不和
五黄土性	三十九、五十六、六十五、七十四	衰、旺	夫婦の離婚、子女の死別、勤務の解雇、後援の斷絶、訴訟の興起
六白金性	三十九、五十六、六十五、七十四	衰、極	發病、貧苦(損失)、色情(放蕩)移居(家出)、悲觀(憂鬱)

○人の一生と先天、天運盛衰の時期

- 一、十九歳以下の人は生月を以て本命と爲すが故に之を除く。
- 二、男子の運は主として其業に女子の運は主として其縁に効應す。
- 三、未婚男子は左表天運の慶徳に浴せず。
- 四、既婚女子は其天運、主人の天運に左右せらるべし。
- 五、八種の天徳を豊有する家相に満四ヶ年以上住居するものは左表を無視して常に盛陽の天徳を稟け之を子々孫々繼承すべし。
- 六、左表盛陽、衰陰時代の逆たる天運の人あるべし之を逆運と謂ひ、尅氣を稟くるに依り起る。
- 七、先天天運は氣學後天の作用(方術)を以て之を改變志得るものとす。

運の年晩					運の年中		運の年初		天運別	
性白八	性赤七	性白六	性黄五	性黒二	性白一	性紫九	性緑四	性碧三	年	別
胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	胎養期	五ヶ年	自二十歳 至二十歳
全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	第一盛陽期	第一盛陽期	四ヶ年	自二十歳 至二十九歳
全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	衰陰期	衰陰期	五ヶ年	自二十九歳 至三十八歳
全上	全上	全上	全上	全上	第二盛陽期	第二盛陽期	第二盛陽期	第二盛陽期	四ヶ年	自三十八歳 至四十七歳
全上	全上	全上	全上	全上	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	五ヶ年	自四十七歳 至五十六歳
第一盛陽期	第一盛陽期	第一盛陽期	第一盛陽期	第一盛陽期	第二盛陽期	第二盛陽期	第三盛陽期	第三盛陽期	四ヶ年	自五十六歳 至六十五歳
衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	五ヶ年	自六十五歳 至七十四歳
第二盛陽期	第二盛陽期	第二盛陽期	第二盛陽期	第二盛陽期	第三盛陽期	第三盛陽期	全上	全上	四ヶ年	自七十四歳 至八十三歳
衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	全上	全上	五ヶ年	自八十三歳 至九十二歳
第三盛陽期	第三盛陽期	第三盛陽期	第三盛陽期	第三盛陽期	全上	全上	全上	全上	四ヶ年	自九十二歳 至一〇一歳
衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	衰陰期	全上	全上	全上	全上	生涯	死亡ニ至ル迄

(四) 感寸學氣

特長なき者は食へない

働いて損をする。働いて猶且食へないとは何が故ぞ敢へて人の働きのみならず人の處世に於ける自然の成行(天運)に得る軌と失ふ軌との二あり。得る軌に入れる者は世の景氣不景氣に超越し生活常に安らかにして人生を樂むも失ふ軌に入れる者は之に惱みて人生を厭ふべし。得る軌とは祐氣の呼吸の齋す作用を指し、失ふ軌とは尪氣の呼吸の齋す作用を指す。祐氣の呼吸は人の本命の氣(誕生の際體内に稟保せる大氣)を助長育成す可く尪氣の呼吸は之を萎縮尪害すべし。抑々人の本命の氣とは天地の其人に與へし得る軌たる特長とす。此の人の特長こそ人の生存を裨益し人の文化を向上せしむるものにして又一面人の世に於ける存在の必要性を作るものとす。されば特長なき人は世に存在の必要性なき人にして得る軌なく究極其生存の困難を來すべし。自己の世に存在の必要性を強化擴大維持すること人の榮達の方途にして又祐氣の擧用こそ之が達成の緒端たり。別言すれば祐氣の効應は其成果必ず人の特長と爲りて表現するものにして此の特長を優秀と謂ひ、天稟と謂ひ、天才と謂ひ、才能と謂ふ。而して人の特長に一白より九紫に至る八種あり(五黃を除く)何人と雖も先天的に有する其本命の特長以外に尙七種の特長を後天的に附加するを得可く以て全人たり得可し。人の特長の發揮體現を業と謂ひ處世の用と爲す。則ち業無き人は得る軌なく生くる事能はず特長なき人は業を得ず生涯を盡くすを得ざるなり。(九氣經濟學)

氣學講堂發行圖書目錄

大阪市南區順慶町二丁目三十八番地 頒布所 矢野慶太郎

既刊	胎田中著	氣學の提唱	小版和本一冊	定價七拾錢	送料拾五錢	宇宙、大氣に關する新自然科學を提唱し以て既成宗教の爲す無きを罵り、新宗教興起の時期到來を叫ぶ
新刊	胎田中編	氣學入門	菊判和本一冊	定價貳拾五錢	送料拾五錢	人と宇宙大氣との深縁を説き、神の加護佛の慈悲に浴する人爲の實際手段を教ふ
新刊	胎田中著	三界の家	四六和本一冊	定價七拾錢	送料拾五錢	人の住家は活物たるを示し以て人の處世に除禍招慶の具体策を垂示す
新刊	胎田中編	九氣密意	菊判和本二卷	定價百圓	送料卅參錢	物質の構成も現象の生因も共に宇宙運行の大氣原子内に於ける九個の氣體粒子の機能より起る未知の眞理を述べたる大氣物理學たり
新刊	胎田中編	九氣建築學	菊判和本二卷	定價貳百圓	送料卅參錢	建築の保有する大氣の作用と其居住者の運命を説く新創有機建築學とす
新刊	胎田中編	大氣藥用必携	菊判和本一冊	定價拾貳圓	送料廿壹錢	宇宙運行の大氣を構成する大氣原子の機能を知り之を人體に藥用する新藥科學の書たり
近刊	胎田中編	九氣醫方	菊判和本二卷	定價貳百圓	送料卅參錢	人體の小天地たる所以を説き大氣を通じて天地と連絡するによつてのみ人體は生き得るものなる事を明らかにし大氣の善用を以て一切の病を治療する新發見の醫術とす

近刊
胎東編

九氣醫方

第判和本
三卷
送料冊參錢

地と連絡するによつてのみ人體は生き得るものなる事を明らかにし大氣の善用を以て一切の病を治療する新發見の醫術とす

大氣分界測定器

革製箱入壹個

定價拾五圓

氣學講堂學則抄

(昭和五年十二月改正)

第一條

本講堂は人に宇宙大氣原子の體と用とを知得せしめ之を自己に活用實
施せしめて人生、處世の怡樂に歡喜せしむるを目的とす。

第二條

本講堂の授教に左の各科を置く。

各科別	講習期間	講習回数	定員
入門普通科	六ヶ月	三回	十二名
奥傳高等科	一ケ年	二回	六名
極意三密科	三ケ年	二回	三名

第四條

各科の教授科目左の如し

入門普通科	奥傳高等科	極意三密科
大氣・輪廻・五行・天干地支・九氣作用・祐氣及尅氣・吉凶・相生・相尅・四盤・遁甲・六大凶殺・吉神・大歲・四淨土・運氣轉換法・用氣法 <small>(除禍招慶術)</small> ・吉凶鑑別。	軌・同會・線路・氣幾象・對中・三合・表裏・直線・卦象・八方・衍數・曆・體用・主及偏・心理氣學・九氣建築學 <small>(家相)</small> ・運命鑑定法・大氣教育學。	色と數・先天及後天・陰遁及陽遁・無極・太極・兩儀・四象・三界・金剛視・胎藏思・無より有を生ずる妙法・胎・九氣醫方・軍用氣學 <small>(軍人ニ限ル)</small> ・探偵氣學・發明發見方・投機成功方・生理延命方・九氣經濟學・氣數理學。

第五條

本講堂入門希望者は紹介者連署を以て入門申込書を提出すべし。但、入門申込書用紙は本講堂より交附す。

第六條

奥傳高等科入學者は入門普通科修了者より極意三密科入學者は奥傳高等科修了者より其入學希望者を以て之に充つ。

第九條

奥傳高等科修業證書被授者は本講堂の認諾を経て家相方位鑑定の開業を爲す事を得。

第十二條

本講堂の開講日に無斷缺席二回以上に及ぶ者は除名停學すべし。氣學は如來の本願にして唯我獨尊に到るが故に之を他人と論議するを禁ず。
(詳細は學則を呈す)

氣學役員錄

(昭和十年九月現在)

氣學講堂

京都市外向日町



師家

宗家

田中胎東

司 願	東京支舍長	兵庫支舍長	大阪支舍長	愛知支舍長	千葉支舍長	埼玉支舍長
權大講教	中講教	中講教	權中講教	權中講教	少講教	少講教
古川喜美	古川喜美	杉木祐一	岩田順三	本多惠治	下里	萩野貫一

九六教導部會

京都市嵯峨小倉山(氣學天壇內)

會長

宗家

田中胎東

幹事九六教導部	幹事九六教導部	幹事九六教導部
權中講教	權中講教	少講教
大塚恒吉	中臺正治	武井春美

神奈川支舍長	山梨支舍長	群馬支舍長	奈良支舍長	茨城支舍長	岡山支舍長	長野支舍長
少講教	少講教	少講教	少講教	少講教	權少講教	權少講教
渡邊勝明	小菅冬	久保田忠孝	橫內治重	菅沼靖元	中安秀野	大柳善彦

理氣作胎部鍊補 權少講教 勢力甚太 昌郎
 理氣作胎部鍊補 權少講教 高瀬 昌郎

中央氣育安居所

所長

京都市外向日町(氣學講堂内)



宗家 田中胎東
 司事 權中講教 古川國康

氣學天壇

律主

京都市愛宕山上(天壇)
 京都市嵯峨小倉山(役場)



宗家 田中胎東

參參參參參參參參參參

與(西方) 少講教 須賀孝一
 與(東方) 少講教 中臺勘藏
 與(北方) 少講教 小菅增太
 與(東方) 權少講教 篠本貞郎
 與(西方) 權少講教 中井つね
 與(南方) 權少講教 伊東優
 與(西方) 權少講教 吉本勢
 與(東方) 權少講教 久保田文
 與(東方) 權少講教 久保田八
 與(東方) 權少講教 渡邊源藏
 與(南方) 權少講教 池田漸

氣學修齊會

京都市嵯峨小倉山(氣學天壇内)

會長

宗家

田

中

胎

東



幹事

幹事

權少講教
權少講教

山

村

彼

面

糸

岐

千

行

附屬

天運纂修部

纂修長

權中講教

大

塚

恒

吉

纂修

權中講教

中

臺

正

治

(五) 氣學寸感

人の生存と天運の先導

人の天運は人類生路の先導を爲すものである。凡そ人の生存には其生路の氣的先驅があつて生命の持續を安全擁護して居るのである。生路の體は空

なる氣で人の肉眼には見ぬないが心眼の開いた人には映ずるものである。所謂將來有望の人とは生路の先驅作用旺盛なる人を指したものであり、又影が淡い人とは之が衰瘦せる人を指したものである。先驅作用が微弱となつて生路が細く弱くなると生活が不如意となり之が停止して終に生路が杜絶すると次の瞬間人體の死を現象するものである。

故に人の生死は先づ先驅する生路の開閉先導の如何より始まると謂ふ可きである。健康の始は生路の確立に出で成人の始は生路の完成に發するものである。教育の目的も政治の對象も醫藥の必要も畢竟人類生路開拓の道路工事を爲すに過ぎない。而して此の人の生存を確保先導する生路は則ち氣學の教ゆる祐氣の軌ミチであつて祐氣を用ひて生路の強固安定せるを得軌トキの確立(徳器の成就)と謂ふのである。天運の善き人は生路の善き人であり天運の悪き人は生路の悪き人である。人が常に其天運の是正涵養を圖るは則ち其生存の裕豊安固を圖る爲である。

自然の成行と人の運命

人の運命は人の行爲の果に非ず。人の行爲こそ人の運命の果と爲す。故に人は自ら運命を如何とも爲す能はざるべし。人は運命の奴隸なりとは實に

至言たり。

(六) 感寸學氣

然らば人の運命を主宰左右する者は何ぞ。自然の成行則ち是なり。

抑々自然の成行とは人を回遶する現象にして宇宙大氣原子の替む作用たり。則ち人は自己を回遶する自然の成行を常に自己に對し善良ならしめんと欲せば必ず其の生因たる宇宙大氣原子を重んじ絶へず其の祐氣を呼吸保

有せざる可からず。

所謂神の加護、佛の慈悲とは即ち此の自然の成行による惠澤に浴するを謂ふ。

氣學天壇料金規定

- 一、建運指導 一人 金拾圓
- 一、家相立案 一住宅 金參百圓
- 但、以上ハ建運自彌書御提出ヲ要ス
- 一、特殊鑑定 一事件 金五百圓
- 但、確實ナル御紹介者ヲ要ス

右之通

昭和八年七月

氣學天壇役場係

- 一、身上鑑定 一人一件 金參圓
- 一、修齊占照 一護持 金五圓
- 一、家相鑑定 一住宅 金五圓
- 一、家相工案 一住宅 金五拾圓

右之通

昭和八年七月

九六教導部會



九六教導部會料金規定

347
739

有所權版

昭和拾年拾壹月壹日印刷
昭和拾年拾壹月拾日發行

非賣品

著者兼發行者 田中胎東

京都市右京區嵯峨小倉山町三番地

印刷所 小野原印刷所

京都市猪熊通九條下川原城町

發行所 氣學天壇

京都市嵯峨小倉山

電話嵯峨四二五番
振替大阪八一九九八番

終

